
帰り道

美羅

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

帰り道

【Nコード】

N8330F

【作者名】

美羅

【あらすじ】

今日から中学1年生の本条優衣は、5年生の時転校してきた雨宮輝のことが好き。でも輝の双子の弟、雨宮陽が現れて、優衣の心はパニック状態。そんな3人が繰り広げるちょっぴり切ない物語。

第一話 思いがけない出会い

私の人生は、笑ったり、泣いたり、遊んだり、、、
ときには、友達と喧嘩をしたり、、、
彼氏も出来たらいいなあ、、、。なんて、幸せなことばかり、思っていた。

でも、現実とは全然違った。
つらくて、悲しいことばかりだった。

4月

「優衣、おつはよー!!」

「あつ!!千香、おはよー。」

あたしの名前は、ほんじょうゆい本条優衣。

今日から中学1年生の元気な女の子 笑”

「優衣、また背伸びたあゝ??小6の時よりなんか、違っ!!」

あたしと話してるのは、親友の もりかわちかこ森川千香子。

小学5年生からの付き合いだから、まだ、付き合いは短いが、あたしにとって、大切な親友だ。

天パでクルクルの髪の毛に、大きなパツチリとした瞳が印象的な女の子。

「そりゃあ、背だって伸びるよー。小6のままだったら、逆に怖いし!!」

「あはは。そりゃ、そうか!!」

、、、ちなみに千香は、ちよつと天然。

私が、遊び半分で言った『天然危険物』というあだ名が今じゃあ、すっかりみんなに定着しちゃってるんだよねゝ、、、。

でも、本人は、あんまり気にしてないけどね。

「優衣、クラス表見に行こー!!」

「OK!!ってか、同じクラスだといいね。」

「絶対、同じクラスだよ!!ってか、同じクラスじゃなかったら、先生を脅して同じクラスにしてみらう!!」

・・・千香、それは、無理でしょ。

大体、今更クラス変えられないでしょ。

なんて思っても、千香には言わないけど。

「よし!!優衣!!クラス表が貼ってあるところまで、競争しよう!!」

、、、、いきなり千香は何を言ってるの??

「いいよあー!!」

って、まあ、私もOKしちゃってるけど。

「それじゃあ、位置について、よあーい、どんっ!!」

千香の合図で、私は走り出した。

全力疾走で、走ってる私は、子供っぽいとは思っ

ても、楽しいんだから、仕方ないよね。

それに、千香は、足速いから、全力疾走しなくちゃ、負けちゃうし!!

まあ、全力疾走しても、負けちゃうんだけどね。

その前に、追いつかないし!!

もちろん、私が遅いんじゃないよ!!

千香が、速すぎるだけで!!

結局、私が着いた時には、もう千香は着いていて

ま、当たり前だね。

千香は学年で女子の中じゃ一番速いし。

「優衣、遅いー!!」

・・・なんて言われても、ねえ?

「あっ!!そうそう、もうクラス見といたよ。」

えっ!!?もう!?

「で、どうだった？」

私は、千香に聞いた。

「えっとねえ………もち、同じクラスだったよ
おー!!」

「マジ!? やったー!!」

そう言つて、私達は抱き合つて、ぴよんぴよん飛び跳ねた。

周りから見れば、めっちゃ変な人だね、、、。

5分くらいして、私達は、やっと離れた。

そして、私もクラス表を見る。

ある人の名前を探す。

「なになに? もしかして、輝君の名前でも、探してるう?」
ドキッ!!

ち、千香つて、以外に感ずるどいなあ。

そう。わたしが、探してるある人とは、あまみやてる雨宮輝のことだ。

5年生の時、同じクラスだった人で、わたしの好きな人でもある。

輝は、5年生の時に転校して来た。

最初は正直言つて、苦手なタイプだった。

でも、話すうちに、どんどん輝に惹かれていった。

輝は、優しくて思いやりがあつて真面目で、、、とにかく、めち

やくちゃカッコイんだ!!

「残念ながら、輝君は、他のクラスだったよあー。」

な〜んだ。そうなのか。

じゃあ、この1年間楽しくなさそうだなあー。

私の“楽しい” “楽しくない” は、輝が“居る” か “居ない” かで
決まる。

はあ。

早くクラス替えしなかなあー、、、なんて、早速思つてみたり

(笑)

そういえば、千香はどうだったんだろ??

「千香は、陸と同じクラスになれたの??」

千香には、5年生の時から恋をしている人が居る。

それが、陸。

本名、坂本陸。さかもとりく

陸は、サッカーをやつてて、見た目も、ちょっとカッコイイ。

だから、女子にも大人気。

「ん。同じクラスだった。」

「、、、、なんて、顔を赤くしながら言う千香。

本当、可愛いねえ。

「じゃあ、千香、今年頑張らないと!!!今もかなりいい感じじゃん?」

千香は、サッカーが好きで、よく地元のサッカークラブに行っていた。

その時、陸に出会ったんだって。

陸に一目ぼれした千香は、それから毎回サッカーの練習がある度にサッカーグラウンドへ足を運んでいる。

本当、単純というか素直というか、、、、。

でも、やっぱり、そんな二人は、すごくお似合いだ。

早く付き合えばいいのに、、、、。なんて、私はいつも言っている。

「ええ〜!!頑張るって、具体的に何をすればいいのお〜??」

「ん、、、、取りあえず、告れ。」

私は、命令口調で言った。

「上から目線??・・・まあ、いいけど。って、その前に、告るとか無理無理無理!!!」

「何でえ〜??絶対両思いなのに、、、、。」

「そんなことないよあ〜。絶対片思いだも〜ん」

そんなことを話していると、『キンコーンカーンコーン』とチャイムが鳴った。

「やばっ!!」

もう、そんなに時間経った!?

初日から遅刻なんて、恥ずかしすぎ!!

「千香、走ろう!!」

「うん!!」

そう言つて、走りだした途端!!

“ドン!!”

「いったあゝ」

私は、何かにぶつかってしまった。

痛いゝ!!

おもいつきりお尻うつたあゝ!!

「大丈夫!? 優衣!?、、、、、つて、あ、ああゝゝゝゝゝ!!!!」

千香、なに大声出してんだろ??

でも、その大声を出した理由は、すぐに分かった。

何故かつて??

だって、私がぶつかった“人”つて、輝だったんだもん!!

「いつてえ」

と言いながら、立ち上がる輝。

「て、輝?? ごめんね。あたし、前見てなくて、、、、。」

あたしが、そう言つと、輝は、思いがけない事を言った。

「まったくだよ。女の子なんだから、もうちょっと、落ち着いたら?? つて、ああ。女の子じゃないのか。」

なんて、笑う輝。

な、、、何なの!? こいつ。

しかも、もう一度そいつを見ると耳には、ピアスを付けてるし、髪は染めてるし、、、。

しかも、制服を思い切り改造している。

今までの輝なら、髪は黒で制服もきちんと着ていてももちろんピアスなんかしていなかった。

つてか、思いつきり校則違反だよね??

私は、しばらく呆然としていた。

「、、、、大丈夫?? 優衣??」

ハッ!!

私は、千香の声で我に返った。

私は、もう一度目の前のやつを見る。

本当に輝なのかな???

ちよつと聞いてみよっ!!

「あなた、雨宮輝ですか?」

すると、その目の前の人物は、またまた思いがけない事を言った。

「俺??俺は輝じゃないぜ。俺は雨宮陽あまみやよう。輝の双子の弟。」

、、、、え?

「ええ~~~~~!!??」

第二話 お花畑

キンコンカーンコン

終業のチャイムが鳴る。

そのチャイムと同時にみんなそれぞれ家に帰っていく。

「優衣く、帰ろお」

「うん」。

「、、、どしたの??何かご機嫌ナナメ?」

「だつてえ」

話は二時間前に戻ります。

「俺??俺は輝じゃないぜ。俺は雨宮陽。輝の双子の弟。」
え?

「ええ!!?」

輝つて弟いたの!?しかも双子の!!

初耳だよ。何で話してくれなかったの!!?、、つてあたり
まえかッ!!

彼女でもないのにわざわざ話さないよね(涙

「つてか、あんた輝のこと好きなの??」

ギクッ!!

こいつ、、、鋭いな、、。

「ふん。凶星なわけ?」

「あ、あんたに関係ないじゃない!!」

あたしがそう言つと、雨宮陽はクスツツと笑つた。

「な、なによ!」

「別に。ただ、、、ねえ。」

そう言つて、あたしの頭のとっぺんから、足のつま先まで、じーっ

と見てきた。

「な、何よ！？釣り合わないとも言いたいの！？」

「ご名答。」

な、、、何なのよ、コイツー！

そりゃああたしだって、釣り合わないとは思っけどさあ、普通初対面の人にそこまで言う！？

あたしが怒りで燃えていると、雨宮陽が口を開いた。

「ま、せいぜい頑張れば？？絶対無理だと思うけど。」

そう言い残すと、雨宮陽はどこかへ行ってしまった。

な、、、何なのよアイツー！！

失礼にも程があるでしょッー！！

あたしはアイツが去って行った方を向いて思いっきりアツカンベーをした。

「、、、ねえ、優衣、アツカンベーをしてるとこ悪いんだけど、遅刻だよ？？」

へッ？？

あ、、、

「ああ~~~~！！！！！！やっぱー、すっかり忘れてた、、、。」

それもこれも、、、

「アイツのせいだああああ！！！」

、、、ということなのです。

ってかアイツ本当に輝の弟？？

顔は似てるけど性格全然違うじゃんかあー！！

ってか輝の顔して『絶対無理』とか言われると傷つく、、、。

しかも！！さつき分かったことなんだけど、その雨宮陽とあたしが同じクラスだったのよー！！

もう、まじあり得ない！！

「はああああ。」

「ため息ついたら幸せ逃げるよ?？」

「いいよ、もう。アイツと同じクラスって時点で幸せ逃げられてるから。」

「はは。確かに。」

『確かに』じゃないよ。

「あッ!!今からカラオケ行かない??」

カラオケかあ。

「うん、今日はそういう気分じゃないからパス。」

「そつかあ。じゃあ、また今度行こーね!!」

「うん!!ばいばい」

そう言つて千香と別れた。

ふう。なんか今日はいろんなことがあつて疲れたなあ、。

あつそうだ!!

こういう日は“あそこ”に行つてみよ

あたしはスキップをしながらあそこへ向かった。

「着いたあ!!」

20分をやつと着いた。

「わあ、きれい。」

見渡す限り花、花、花!!

そう、わたしが言っていた“あそこ”とは、お花畑のことだったのだ。

小5の時、学校をサボってブラブラ歩いてたら偶然見つけた。

色々な花が咲いて、あたしは、一目で気に入った。

それから言うもの、あたしはここを自分の秘密基地にしていた。

もちろん、千香にも教えていない。

あたしは、お花畑の上に寝転がった。

「うっん！！気持ちいゝ」

このまま寝たいなあ、、、。

あたしがウトウトし始めた頃、「あれ？本条??」と言う声が聞こえた。

へ？

その声は、、

「輝!？」

あたしは勢いよく飛び起きた。

「久しぶり。」

そう言つてニコツつと笑う輝。

か、、カッコイイ。

思わず見とれてしまふ、、。

「本条は、よくここに来るの?？」

「えっ?あっうん!!じゃなくて、ううん。たまにくるだけなの。」

「へえ。そうなんだ。」

「うん。輝は??」

「俺??俺はよく来るかな。」

「へえ!!そうなんだ!!」

「おう。俺、花が好きなんだ。花つて見てると落ち着くじゃん??それにキレイだし。つて、男がこんなこと言ったらキモイかな??」

「ううん!!全然!!キモくなんかないよ!!」

「そう?それならよかった。じゃ、俺はこの辺で、、あっ!!」

メアド交換しねえ??」

メアド??」

「うん!!いいよ!!じゃあ、赤外線で送るね。」

「おう。」

あたしたちは、メアドを交換し終わった。

「じゃ、またなあ!。」

そう言つて輝は、手を振りながら去つていった。
、、、、やっぱり、カッコよすぎるよ、、、。

つてか、メアド交換しちゃった!!

幸せはまだ逃げてなかったみたい、、、。

あたしはしばらく携帯を見つめたままお花畑のなかでボーっと立っていた

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8330f/>

帰り道

2011年1月3日22時42分発行